



立教200年 記念特集 歴史編

感謝の心で「誠」を尽くす

幕末3大新宗教の一つで、岡山市北区尾上の神道山に本部を置く黒住教が今年、立教200年を迎えた。日本古来の神道一派である黒住教は、日の出を拝み、丸く、大きく、あたたかい心を養い育てることをつとめとしている。現代社会にも通じる教えを説いた教祖・黒住宗忠の生涯や教団の歴史、さまざまな社会貢献活動をシリーズで紹介する。



黒住教教祖 黒住宗忠 (1780-1850年)

教祖・黒住宗忠の生涯

黒住教を開いた黒住宗忠は、1780(安永9)年の冬至の日、岡山藩池田家の守護神社・今村宮に代々仕える神官の家に生まれた。幼少のころから親孝行で知られ、33歳のときに両親を亡くすと、深い悲しみから自身も病に伏す。明日をも知れぬ重篤の身となるが、朝日を拝んだときに「陽気な心を養うことが親孝行だ」と悟り、生きる力を取り戻したと伝わる。

天命直授

1814(文化11)年の旧暦11月11日、この日は陰極まって陽に転ずる冬至の日、しかも宗忠34歳の誕生日だった。全快した感謝と喜びで、昇る朝日に祈りをささげていた宗忠は、日の出に顕現する天照大御神と自分

生き方を説く

宗忠はこの時、天照大御神の神徳のありがたさを正しい生き方を伝えることで民衆の「心



霊地大元・教祖記念館(1848年竣工)

なおし」をして、いこうと決意する。宗忠が得た人間観は「万物の親神が天照大御神であり、人は皆、天照大御神の心分心(わけみたま)をいただく神の子で尊い存在」というもの。宗忠は陰気や腹立ちで「ご分心」を汚すことなく、人生を肯定し、充実した喜びあふれる生

200年の歩み

立教から36年後の1850(嘉永3)年、教祖宗忠が亡くなった後、門人たちが教えを各地に広めていった。幕末の政情不安の中、特に京都では高弟の一人、赤木忠春が孝明天皇の妃を病から救ったことなどから、孝明天皇の信仰が深まり、教祖宗忠は「宗忠大明神」の神号を下賜される。赤木らは62(文久2)年、神楽岡・宗忠神社(京都市左京区)を創建。孝明天皇が仰せ出された唯一の勅願所(天皇の命によつて国家の安泰を祈願した社寺)として、皇室や公家から厚

い崇敬を受けた。

神道教団独立の先駆け

最大の危機に直面したのは三代教主・宗篤の時代。明治新政府が神道国教化政策を掲げ、神道系宗教団体をすべて国による神道事務局に所属することになった。しかし宗篤は「人の心まで政治が規制することは、国の将来を誤らせる」と主張。大運動の末に別派独立を果たす。統

神道山に遷座

く数々の神道教団の独立に、黒住教が果たした役割は大きい。

教祖宗忠生誕の地であり、立教の地である岡山市の大元に、念願の大元・宗忠神社(岡山市北区上中野)が鎮座したのは1885(明治18)年。立教から160年間、ここに教団本部が置かれていたが、1974(昭和49)年には壮大な日の出を求めて、



神道山

日拝

岡山市北区尾上の神道山に遷座した。日本の近代史とともに歩み、一般民衆から天皇家まで広く信奉された黒住教。教会所は今や全国300カ所に広がっている。

日本人が米作りを始め、自然の恵み、特にすべての命の源である太陽の働きに感謝するようになったところから、神道は始まった。日本古来の神道に最も近い教えをもった神道教団と言われる黒住教は、日の出を迎え拝む「日拝」を祈りの基本とし、感動と感謝の心で、人に、社会に「誠」を尽くすことを大切にしている。

現在、神道山では毎朝、六代教主らが日拝修行をつとめ、世界の平和と人々の開運を祈っている。お日様を拝みながら、神道の祈りの言葉「大祓詞」を心に唱えることで、我欲、我執が破われ、本来の善良な「分心」が立ち現われてくるという。

黒住教のあゆみ

- 1780(安永 9)年 教祖宗忠誕生
- 1814(文化 11)年 宗忠が「天命直授」、黒住教立教
- 1846(弘化 3)年 「御定書」制定(教団の成立)
- 1850(嘉永 3)年 宗忠昇天
- 1856(安政 3)年 教祖に「宗忠大明神」の御神号が下賜される
- 1862(文久 2)年 京都に神楽岡・宗忠神社鎮座
- 1872(明治 5)年 黒住講社として公認される
- 1885(明治 18)年 岡山に大元・宗忠神社鎮座
- 1899(明治 32)年 大元に大教殿竣工
- 1914(大正 3)年 立教100年大祭斎行
- 1965(昭和 40)年 重症心身障害児施設開設運動を展開(旭川児童院創設に寄与)
- 1974(昭和 49)年 岡山・神道山に大教殿竣工、遷座
- 1979(昭和 54)年 六代宗晴教主が第3回世界宗教者平和会議(米・ニューヨーク)の開会式で「大調和への祈り」を捧ぐ
- 1990(平成 2)年 神道山で「神道国際研究会」開催
- 1995(平成 7)年 阪神淡路大震災で1日5000食の炊き出しを51日間展開
ダライラマ14世を迎える
- 1999(平成 11)年 全国教会所一斉社会奉仕「まるごとボランティアの日」開始
- 2000(平成 12)年 「ミレニアム世界平和サミット」(国連本部)で六代宗晴教主が開会式での祈りをつとめる
- 2004(平成 16)年 七代宗道副教主が万国宗教会議(スペイン・バルセロナ)に出席して講演
- 2014(平成 26)年 立教200年大祝祭斎行

